



マウンテンバイク山本兄弟

「二人三脚」目指した世界

「弟よ、全ての力を出し尽くすレースを」。ロンドン五輪の男子マウンテンバイククロスカントリーに参戦する幕別町出身の山本幸平選手(26)とSPECIALIZED国際アウトドア専門学校、帯農高出に、人一倍熱い応援を送るのが、兄で同競技の現役選手の和弘さん(29)とキャノンデールレーシングチーム北海道ハイテクノロジー専門学校、帯三条高出だ。小学生で弟と本格的に競技を始めて以来、常に励まし合い、情報を交換、世界で戦うことを目指した2人。目標の兄弟での五輪出場はかなわなかったが、和弘さんは「弟はライバルでなく良い仲間。五輪出場はうれしいの一言」と、本番での勇姿を楽しみにしている。

幸平選手 12日夜に登場



弟の山本幸平選手(右)と共に世界に挑んできた和弘さん。5月に愛媛で行われた国内大会では初のワンツーフィニッシュを果たした

兄の和弘さん「全ての力出して」

小学生で130キロ走破

和弘さんは小学6年生で競技をスタート。学校から帰ると幸平選手と練習に明け暮れた。夏休みにはほぼ毎日、幕別町の自宅から池田や本別、浦幌を回る130キロのコースを5時間かけて走破した。

「十勝は道路が広く、信号も少ないので長い距離を走ることができた。2人で声を掛け合いながらの練習が、ただ楽しかった」と振り返る。十勝川温泉近くの林道も走った。父哲也さん(56)と母美智子さん(54)の協力を得て、和弘さんが高校を卒業するまで、4人で道内のレースを回った。

専門学校を卒業した21歳でプロとなり、現在は東京在住。フランスに拠点を移した幸平選手からは、世界のトップ選手の練習方法や食事などの情報を教えられ、互いにレベルアップを図ってきた。

昨年からのロンドン五輪の日本出場枠獲得を見据え、国際自転車競技連合(UCI)のレースに出場しポイントを稼ぐため、幸平選手と同じ欧州に渡った。弟の自宅に泊まり練習を共にしたことも。昨秋にはチームを移籍するまで心が揺れた幸平選手を支え、現在所属する世界トップチームのSPECIALIZEDの関係者に、幸平選手の高い能力を直接訴えた。

全日本で1、2位

結局五輪の日本枠は1つで出場はならなかったが、5月の愛媛県の大大会と、6月に長野県で行われた全日本選手権大会で幸平選手が優勝、和弘さんが2位。「念願のワンツーフィニッシュ」を達成し、山本兄弟の実力を知らしめた。

46位に終わった北京五輪の雪辱を果たそうとする幸平選手。和弘さんは両親とともに、12日午後1時半(日本時間同9時半)のレースを現地地で応援する。

(北雅貴)

十勝毎日新聞社は、ロンドン五輪に出場する男子マウンテンバイクの山本幸平選手への応援メッセージを募集しています。ファクス(0155・25・2700)、Eメール(gorin@kachimai.co.jp)、かちモバ(http://kachimai.mobi/)でお寄せください。メッセージは順次掲載します。匿名やペンネームでも受け付けます。